国労東京支部

2024年12月17日
第67号
国鉄労働組合東京支部機関紙
発行責任者　松田　恭明
編集責任者　佐藤　賢一

東京総合車両センター分会
第３回定期大会開催

12月13日（土）、東京総合車両センター内において、東京総合車両センター分会第3回定期大会を開催し、組合員８人が集まった。コロナ禍でなかなか開催出来なかった分会集会などを率直に反省して総括をした。

チェック機能の強化を！

討論ではJETS職場の検査周期延伸により車両の安全が脅かされている実態やプロパーの教育問題などが報告された。

仕業職場では「貨物の輪軸圧入のデータ改ざんを受け、JETS本社からこれまでの仕業検査のやり方から、作業標準項目すべてを網羅する検査方式に変更する」という事が言われた。それはそれで良いが、問題なのはこれまで会社によって意図的に作業時間を短くされ、要員も削減された。このやり方だと１時間以上かかる。会社に検査時間の延長を求め、人員も要求しなければならない。「構内運転士でも長期病欠が出たために、若いプロパー社員に対し休日出勤を要請し、何とか乗り切ろうとしている」「何か大きな故障があると一斉点検で終わり。会社はこれまでそういうことをやってきた。会社は検査体制を見直さなければならない」などの意見も出された。

話し合って要求し働き続けられる労働条件を勝ち取ろう

メディア職場では「重いポスターを抱えながら一日２万歩も歩かなければならず、腰への負担がものすごく大きい。６月に１名のエルダーが退職したため要員もキツい。今後エルダーの補充もないのでどうなるのか？」など厳しい労働実態で健康も不安である、との発言もあった。

今、出向職場で起きている要員不足をはじめとした様々な問題点などを出し合う中から、今後も集まる場をつくって話し合っていくことを確認した。

最後にセンター内本務職場で働く仲間の組織の拡大、労働条件の改善など闘う方針を確立し、最後に白井分会長の「団結ガンバロー」で大会は終了した。

（投稿　佐藤　誠）